

## 福岡県の主な農産物の生産状況

令和3年7月15日現在  
(専技情報より抜粋)

### ◇早期水稻（夢つくし、コシヒカリ）◇

4月中下旬植えの出穂期は7月9～15日程度で平年並みです。稈長は平年並み～やや長く、穂数はやや少ないです。

トビイロウンカの発生量は、平年に比べてやや多いです。

穂揃期～乳熟期にウンカ類とカメムシ類対策を徹底しましょう。

出穂期前後は水を切らさないよう管理しましょう。

### ◇普通期水稻（夢つくし、元気つくし、ヒノヒカリなど）◇

5月下旬植え「夢つくし」は茎数が確保され、中干し時期を迎えています。

移植後、高温多照で経過したため、生育は順調に進んでいます。

ウンカ類の飛来は、平年より3週間程度早い5月上旬から始まり、トビイロウンカの飛来量は平年並み～やや多いです。

現時点では、いもち病の発生は少ないです。

スクミリンゴガイの発生が多いほ場では浅水管理を行い、対策を徹底しましょう。

雑草が多い場合には、中後期の除草対策を実施しましょう。

6月植えは、茎数が確保され次第、中干しを開始しましょう。

ウンカ類やいもち病等病害虫の発生に留意し、適切な対策を行いましょう。

### ◇大豆◇

播種は、県北部を中心に6月中旬から開始され、7月9日時点の播種進捗は927ha(前年同期87ha)と昨年に比べ進んでいます。

6月播種の出芽、苗立ちは安定しています。

今後、ほ場条件が整い次第、7月中旬を中心に播種が本格的に進みます。

土壤水分が適度になったら速やかに播種しましょう。

土壤の乾湿に応じて播種深度を調整しましょう。

播種時期が遅くなる場合は、株間を必ず調整し、播種量を増加しましょう。

### ◇夏秋ナス◇

雨よけ栽培は、3月下旬から定植が行われました。

定植以降、草勢は安定しており、全体的に順調に生育しています。

露地栽培は、4月末～5月中旬を中心に定植が行われました。  
早い梅雨入りとなりましたが、生育は順調です。  
現在、着果負担がかかっているため、今後の草勢維持管理が重要です。  
アザミウマ類、コナジラミ類、うどんこ病等の病害虫が散見されます。  
雨よけ栽培は、谷、サイド、妻の換気によりハウス内の昇温抑制に努めましょう。  
病害虫対策を徹底しましょう。  
草勢維持と収量確保のため、かん水、施肥管理を徹底しましょう。

#### ◇イチジク◇

加温ハウスが出荷中です。  
出荷量は、5月上旬の低温や梅雨入り後の曇天等で生育進度がやや停滞し、また6月の乾燥で一部の園では肥大が抑制されたことから、前年や平年より少ないです。  
今後、天候回復に伴い、出荷量は増加する見込みです。現在の果実品質は、概ね良好です。  
無加温ハウスおよび露地栽培の生育は、前年並み～やや早く、出荷開始はそれぞれ7月上中旬、8月上旬の見込みです。  
各作型とも適期収穫および鮮度保持管理に努めましょう。  
新梢誘引や副梢管理を徹底し、受光体制を改善することで、品質向上を図りましょう。  
今後の気象や病害虫の発生に応じ、対策を講じるとともに、梅雨明け後の高温乾燥条件下では、特にこまめなかん水管理を行いましょう。

#### ◇スモモ◇

出荷は、主力品種の「大石早生李」「ソルダム」が終了し、現在は「貴陽」が出荷中、「太陽」が出荷始めです。  
出荷量は、前年及び平年に比べてやや多かったです。  
今年度は、7日程度前進出荷だったことに加え、5月の定期的な降雨により、果実肥大が促進されたことが増加の要因と考えられます。  
果実品質は、概ね良好に推移しています。  
誘引、新梢管理を徹底し受光体制の改善を図ることで、果実品質の向上や翌年の結果枝の充実を図りましょう。  
収穫後は、樹勢回復のために早めに礼肥を施用しましょう。

#### ◇トルコギキョウ◇

6月の出荷量は、夏季出荷作型（6～9月出荷）に取り組む生産者が減少し、前年

比 79%と大きく減少しました。

一方、販売単価は、高冷地の低温による開花遅延、高齢化による減産等で市場入荷量が少なく 140 円と高騰しました。

秋出荷作型（10～11 月出荷）では、冷房育苗が行われ、定植は 7 月下旬から順次開始されます。

秋出荷作型では、定植前から寒冷紗を被覆し、定植時の地温低下を図りましょう。定植後は抽台開始まで十分なかん水を行いましょう。

夜蛾類対策（防虫ネット、黄色灯の設置）を徹底しましょう。

#### ◇ホオズキ◇

生育は、草丈 100cm 前後と昨年よりも長いです。

梅雨入りが早かった影響で低段位の着果が少ない株が多いです。

白絹病の発生も散見されます。

出荷最盛期は、実のみの出荷は 7 月下旬、実付き枝の出荷は 7 月末～8 月初旬の予定です。

白絹病、斑点細菌病対策を徹底しましょう。

梅雨明け後は、必要に応じて畝間灌水等を実施しましょう。

#### ◇肉用牛◇

和牛枝肉単価は、底堅い内食需要の継続で堅調に推移しています。

価格が下落した前年より 38%高いですが、過去 5 年平均比では、5%程度の上げ幅です。

量販店で手頃な価格の交雑種に需要がシフトし、交雑種相当の省令価格は、堅調に推移しています。

同月の年次比較は和牛と同じ動きです。

高温多湿のため、送風や遮光等、暑熱対策を徹底しましょう。

飼料イネでウンカ類等の発生に留意し、適切な対策を行いましょう。